



さぶみ 左鎧って どんなところ？

左鎧は、島根県西部・津和野町内に位置する人口約300人の地域です。豊かな森と水に育まれる風土には、オンリーワンの魅力がたくさん！県内最高峰の安蔵寺山(1263m)の麓に広がり、清流日本一の高津川が流れています。

また、昔から団結力があり地元を愛する人びとのあたかさも天下一品。世代を超えて受け継がれる石見神楽は、まさに必見。

平家伝説ゆかりの地でもあります。



暮らしの達人

きょうむらきくいち
京村菊一さん 1928年生まれ

昔は学校行くのに、藁草履はいてね、行きよったのよ。その山道を、今は夏の宿泊体験で来た子どもたちが2時間ぐらいかけて歩いてね。楽しそうにしどった。山の上に住んどるけえ、昔から自給自足で。田んぼして、畑して、山に入って椎茸作ったり、炭木を切ったり。今でも秋には炭を焼いてね、ナラの木を。ナラは火に強いし、火を起こしても消えんのんよ。一番ええのはカシの木がええんじゃがねえ。蜂(養蜂)は趣味でね。蜂がおりやなんか楽しみになって。點の網掛けも時季になったら毎晩のように行きよったんじや。



左鎧には、生き字引きのような暮らしの知恵をもつ達人たちが今も現役で活躍中！



ひらの
平野カメヨさん 1935年生まれ

春先には、花わさびを食べるんじや。わさびの白い花を漬物にしたり、白和えにしたり。竹の子や山菜を炊いたりしてねえ。夏は鮎。左鎧の鮎は美味しいって、昔から言われよったけえ。冬になつたら、いのししの大根を炊いて。いのししの肉はねえ、大根に合うんよ。冬になると身が縮まって、油のって美味しい。私の主人も獅師をして数十年しどった。料理はほとんど、お母さんがするのを見よう見まねで覚えて。昔の一番のごちそうの主役は、羊羹。今も小豆を炊いて作るんよ。昔はお祭りのソーキを並せや蒲団がごそすうだったわ。



- 石見空港/益田市街から車で約1時間(国道9号線へ国道187号線)
- 中国自動車道六日市ICから車で約50分(国道187号線)
- JR益田駅からバスで約50分(新左鎧橋で下車1日3便)
- JR日原駅からバスで約20分(新左鎧橋で下車1日3便)

制作 左鎧の将来を考える会

〒699-5202 島根県鹿足郡津和野町左鎧1480

☎ 0856-76-0216

<http://www.sun-net.jp/~sabumi/>

発行日 2012年11月

取材・編集 高野清華
撮影・デザイン 大下志穂
写真提供 藤井宏

さぶみっこ全員集合！

地域の
取り組み

左鎧ならではの地域のイベントが盛りだくさん。

ちびっこから、おじいちゃんおばあちゃんまで、世代を超えてみへんな仲良し大活躍！

四季折々のイベント

1月 元旦祭	9月中旬 左鎧小学校地区民運動会
4月下旬 潮山八幡宮春の大祭	10月上旬 「祭りだよ！左鎧に集合！」
6月下旬 ホタル観賞会	潮山八幡宮秋の大祭
8月上旬 夏休みの宿泊体験	11月下旬 公民館祭り



リターン・ターン 大歓迎！

大自然の中、生きるために昔からの知恵や技を教えてくれる、国宝級のおじいちゃんやおばあちゃんがあちこちにいて、幅広い年齢の大衆疾のつながりの中で助け合いかねら子育てできているのが、ここ左鎧。玲瓏に暮らして、これから左鎧と一緒に創っていきたい！ここで子どもを育んでみたい！農の生活にシフトしたい！そんな仲間を探っています。

ふじい しきはる 左鎧自治会長
藤井茂治さん 石見神楽左鎧社中代表

「左鎧には季節ごとに色々なイベントがあるけえねえ。賑やかのは、秋じやねえ。運動会には、小さい集落じゃけえ、よそに出てるもんも帰省してきて、子どもからお年寄りまでみんなが集まる。最後の班対抗リレーが一番盛り上がるんじやあ。10月の祭りには、前夜祭に神楽を舞って、当日には八幡さま(潮山八幡宮)で拝んでからお神輿の行列の出をして。神社に戻ってきたら、餅まき。数年前からは、左鎧オリジナルの映画ができるんじや。映画好きな郵便局長・大畠さんが『左鎧バラダイス』ちゅう映画を作ってくれたナニ シルバニアノゾミがチラホラ。毎年決まりのレコトノト。

島根県津和野町

宝探し！

さぶみ 左鎧マップ

左鎧の宝物、見つけに来んさいや～♪



継がれゆく伝統

古くから神職により受け継がれてきた石見神楽。明治初期の「神職演舞禁止令」の際に、左鎧潮山八幡宮司より民間へ六調子神楽が伝授・継承されました。その後、戦後の昭和20年10月に解散。現在は、昭和22年に浜田市日脚神楽社中より伝授された八調子神楽が、生き生きと継がれています。

<http://sabumukagura.web.fc2.com/>



いわみかぐら さぶみしゃらゅう
石見神楽左鎧社中





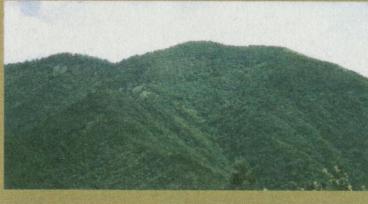
たかつかわ 清流高津川

島根県西部を流れる一級河川。中国山地から日本海へとそぞぎ、3市町をまたぐ長さは81km。水質調査では、数年連続の「清流日本一」に選ばれています。高津川の恵みといえば、何といっても鮎。網を使った縁り込み漁や毛掛け、竿釣りまで、様々な伝統的漁法が受け継がれています。釣り客には山女魚の渓流釣りも人気。左鎧には、長い年月をかけて清流に育まれた人々との暮らしがあります。



あそじさん 安蔵寺山

島根県の最高峰(1263m)。古くは山岳信仰の地として山頂付近に安蔵寺という寺があったと伝えられています。国立公園内に位置し、豊かな原生林があります。山頂からは日本海が眺められ、晴れば四国・石鎚山を望むことができます。巨樹オオミズナラの木は、町の天然記念物。



若手わさび農家たち

左鎧では、昔から清流を活かしたわさび栽培が盛んです。

「日本一のわさび作りを目指しています。作るからには、ええもん作らなきゃと思う。その年のわさびの出来を見て、次の年はまた工夫しようと思う。ええもん作ろうと思ったら、本当に限界はないですね。」

おはとしなり
大庭敏成さん

「水田わさびは、祖父の代から受け継いだ溪流式、石を積み上げて作った畳石式で栽培しています。人に喜んでもらえるようなわさびを作り、わさびの魅力を多くの方に伝えられたらいいですね。」

やすみしんじ
安見真司さん

きょうむらほくじょう 京村牧場

津和野町左鎧1480
0856-76-0216

標高約450mに位置する京村牧場。京村さんご夫婦が営む牧場には、肉用牛200頭、その他にも豚や鶏、ボニーが飼育されています。ここからの眺めは絶景で、「仕事場から見える景色には、いつも癒されます。朝は山にかかる雲海。夜の星もきれいでですよ」と、奥さんのまゆみさん。独自ブランド「熟牛牛」も、好評販売中。地域ぐるみで行う農業体験「さぶみ牧童探検隊」には、町内外からの子どもたちが、毎回楽しく参加しています。



横道の仏像

摩訶不思議

昔むかし、ある日のこと。横道川を木彫りの仏さまが流れてきたそうです。仏像は4体あり、2体は横道地区の安見家へ、もう2体は鎮蔵寺に祀されました。安蔵寺山から流れてきたと言われるこの仏像は、今も大切に保管されています。



安見家の仏像

食

左鎧には、自然の恵みがいっぱい！

山葵わさび

清水を利用して作られる左鎧のわさびは、辛味の中に甘味を感じられる独特的の風味。農家のこだわりと情熱から生まれる極上わさび。ぜひご賞味あれ！



鮎あゆ

澄み切った清流・高津川で獲れた天然の鮎は絶品。6月上旬から漁が禁漁に。地元ならではの「鮎うるか(鮎の塩辛)」も美味。

地酒しきけ

老舗・下森酒造の日本酒。銘酒「菊露」「しまね寶泉」は酒好きも思わずうなる、香り高い地酒です。

味噌みそ・豆腐とうふ・蒟蒻こんにゃく

杣の里特製、手作りの加工品「仙っこ」シリーズ。左鎧の母たちが作る、真心込もったあたたかい味です。



猪いのしし

地元獵師の手で捕えられたいのしが素材。杣の里で食べられる冬のいのしし鍋は、特に美味しいと評判です。

そま さと 杣の里よこみち

津和野町左鎧37 0856-76-0004

旧横道小学校を活用した体験・宿泊施設。懐かしい木造の佇まいが印象的です。そば打ちや、こんにゃく作り、豆腐作りが体験できます。「安蔵寺山の登山客の方など、県内外から来られます。地元の新鮮なお野菜と、山菜、鮎、いのしし料理をお腹いっぷりに食べに来てほしい」と、スタッフの三好さん(写真左)。素朴な手作り味噌などの加工品も人気です。元気な女性スタッフのみなさんが魅力。一度訪いたら、きっと心のふる里になること間違いなしです。



したもりしゅぞう 下森酒造

津和野町左鎧992
0856-76-0002

創業1874年の酒造会社。銘酒「菊露」「しまね寶泉」などがあります。建物の石州赤瓦と漆喰のコントラストが美しく、国の登録有形文化財に指定されています。作業場内に設けられた、高さ19メートルの煙突も印象的。



平家伝説

今に伝わる左鎧の平家伝説。いくつかのお話を、ご紹介！



其の壱 左の鎧

その昔、壇ノ浦の戦いに敗れた平家一門の人びとが追されて馬に乗り駆け過ぎるとき、ク額の垣根に引っかかり落ちたのが、左足の鎧。それを拾う間もなく逃げて行ったという話が、地名の由来になったと言われています。



其の弐 御殿岩・壇岩

平家の落人一行が一夜を明かしたと言われるのが壇岩。量のうちに平らな岩々が広がっています。その際、高い岩の壇の上で安徳天皇がお休みになつたので、その場所は御殿岩または一夜城と呼ばれています。

其の参 集議

追っ手の手がゆるんだ際に、一同が集まって話し合つたと言われる場所。

其の四 晩越

落人たちが追っ手とのはげしい戦いの後にたどり着いた、晩越峰。日暮れの頃から峰に登ることになつたので、この地名がつきました。

其の伍 車場

奥深く走りかけてくる追っ手とのはげしい戦いになつたと言われる壇岩の奥。